



今月の題字
ひろ あき
遠藤大滉くん
(山田北小6年)

町のわだい

町消防操法競技会に220人 各分団とも機敏な動作を披露

5月28日、分団対抗の町消防操法競技会が山田消防署前で開かれました。消防団の士気の高揚と日常の訓練成果を発表する場として1年おきに実施されているもので、町内全13分団から団員220人が参加。各分団とも機敏な動作で訓練の成果を存分に発揮していました。競技の結果、ポンプ車操法の部では第1分団が優勝、第2位は第3分団、第3位に第5分団が入り、小型ポンプ操法の部では第12分団が優勝、第2位は第10分団、第3位に第4分団が入りました。各部門で優勝した分団は、県消防協会宮古地区支部消防操法競技会に出場する予定です。



指定書の交付を受けた所有者と管理者の皆さん

6基の鞭牛碑を文化財に指定 道開削の偉業示す貴重な資料

町教育委員会では、江戸時代、人生の後半生を道路開削改修にささげた僧、牧庵鞭牛(1710~1782年)が建てた石碑6基を町の有形文化財に指定しました。指定されたのは南無阿彌陀佛碑2基、悲母観音開山碑1基、道供養碑3基で、鞭牛が林宗寺住職を引退した宝暦5(1755)年から明和2(1765)年までの間に建てられたもの。いずれも鞭牛の名が刻まれています。本町の鞭牛碑では、昭和56年に指定された大沢袴田の「六角塔」があり、今回6基の指定で町内すべての鞭牛碑が町の有形文化財になりました。本町には鞭牛を尊敬し、道路開削を物心両面で支えた人が多かったといわれています。石碑の多くは個人所有であります。現在まで大切に受



船越大綱南無阿彌陀佛碑



荒川穴乳山洞窟悲母観音開山碑

け継がれ、いずれも鞭牛の精神と足跡を示すもので、町の近世史の貴重な資料となります。指定書の交付式は4月27日、町中央コミュニティセンターで行われました。式では、馬場善也教育委員長から鞭牛碑の所有者に指定書が手渡され、管理者には今後とも貴重な文化財を保護・管理するようお願いしました。

- ◆新たに指定された牧庵鞭牛碑
- ▶船越大綱南無阿彌陀佛碑(88㌘×20㌘)
- ▶大沢袴田南無阿彌陀佛碑(47㌘×27㌘)
- ▶荒川穴乳山洞窟悲母観音開山碑(73㌘×28㌘)
- ▶船越山ノ内道供養碑(172㌘×54㌘)
- ▶織笠新田道供養碑(224㌘×208㌘)
- ▶織笠三本小松道供養碑(58㌘×24㌘)

映画「待合室」山田町上映会 600人が来場し熱心に見入る

山田BBS会では5月14日、一戸町の小繫駅を舞台にした映画「待合室」の上映会を町中央公民館で開催しました。映画は同駅に置かれた雑記帳「命のノート」の管理人をモデルに、その半生や旅人との交流を描いた作品で、当日は板倉真琴監督=丸写真=の舞台あいさつも行われました。会場には3回の上演で計600人が訪れ、映画から伝わる人間の優しさと強さに熱心に見入っていました。入場料の一部は町内の幼稚園・保育園(所)を対象にした「花いっぱい運動」に役立てられます。



クラシックギターの発表会 独特の温かい音色が会場包む

5月21日、山田ギター愛好会主催の「第11回わかばコンサート」が飯岡防災センターで開かれました。クラシックギターの練習成果を発表する場として毎年開催しているもので、昨年からは小学生を対象にした「ひまわりジュニアギタークラブ」のメンバーも参加。出演した皆さんはソロからトリオ、リコーダーなどを交えた編成で、「めだかの学校」「手をたたきましょう」など親しみやすい曲を中心に全23曲を演奏。独特の温かい音色が会場を包み、訪れた地区民から盛んな拍手が送られていました。

NZの高校生が本町を訪問 1週間滞在し交流深める

ニュージーランド・ダニーデン市のキングス高校の生徒ら14人が修学旅行の訪問先として4月27日から5月3日まで本町に滞在し、町民と交流を深めました。同校で日本語を教えるパーク・黒沢佳美さんが、かつて本町で英会話教室を開いていたことが縁で、NPO法人山田町国際交流協会が一行を受け入れたものです。一行は豊間根保育園を訪れて園児と一緒に昼食を取ったり、踊りを披露したりと、楽しい時間を過ごしたほか、民間企業を訪問するなど日本の文化や自然環境を学んでいました。

